

海外赴任中の遠隔治療で 1～2 年かけて症状がみられなくなった小児アトピーの経過 (7 歳 男児)

症例 ID：001-07-KY4 | 記録日：2016 年 3 月 29 日

1. 診断・治療前経過

2 歳頃、首と腹部から皮膚症状が始まり、徐々に広がりました。海外駐在中で定期受診が難しい状況でした。それまでステロイドを含む薬は使用していませんでした。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	ステロイドは使用していません。
製品名	該当しません。
強度	該当しません。
使用期間	使用歴はありません。
中止時期	該当しません。
来院前／後	来院前後とも使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
2 歳頃	発症	首と腹部から皮膚症状が始まり、徐々に広がりました。
一時帰国時	治療開始	煎じ薬と外用薬による治療を開始しました。
海外赴任中	遠隔治療	薬を飲めない期間もありましたが、症状の強い部位へ外用を続けました。
治療 1～2 年	経過中	大きなリバウンドはみられず、症状が自然に減っていきました。
7 歳時	経過後	アトピー症状に悩まされることなく生活していました。

4. ピーク時期

治療開始後に大きなリバウンドはなく、症状のピークは、2 歳頃に首と腹部から全身へ広がった時期です。

5. 困りごと

- 海外駐在中で定期通院が難しく、薬を切らすことがありました。
- 環境や食事の影響か判断できず、家族が対応に迷いました。

6. 経過のまとめ

遠隔治療を続ける中で、1～2 年かけて皮膚症状が徐々にみられなくなりました。

7 歳時には、その後アトピーに悩まされることなく日常生活を送っていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。